

Forex

株式会社 ジャパン
エコノミックパルス

〒107-0052

東京都港区赤坂1-14-5

Tel 03-3568-2973

Fax 03-3568-2977

www.j-pulse.co.jp

info@j-pulse.info

Market Insight

2020年8月31日（月）

根強いドル安と円高圧力の漸減にらむ

ポスト安倍、米指標と対策、米連休前調整など焦点

今週の為替相場は全般的な根強いドル安の圧力と、ドル/円やクロス円での円高・外貨安圧力の漸減をにらんだ展開が想定される。週間予想はドル/円が105.00-106.80円、ユーロ/円は124.50-126.80円。前週は後半に米FRBが物価目標を改定し、インフレ容認姿勢を示したことでドル安、日本で安倍晋三首相が病気退任を表明したことで円高が後押しされた。今週はポスト安倍争いや雇用統計などの米指標、米追加策の行方、高値過熱感のくすぶる米株、米国市場の9月5-7日の連休前調整などが注視される。

菅氏、過去には「危機管理で為替重視」発言

今週の為替相場で注目されるのは、安倍晋三首相（自民党総裁）の病気退任を受けた後任選びだ。週明け31日には菅義偉官房長官の自民党総裁選出馬と党主流派による菅氏支持の観測が浮上し、「アベノミクス路線の継承」期待で日本の株高と円高歯止めが後押しされた。

菅氏はデフレ脱却に熱心であるほか、かつて外国人投資家から評価を得てきた竹中平蔵元経済財政相（現・東洋大学教授など）と現在も近い関係にあり、内外の市場関係者からの評価は悪くない。

しかも菅氏が実際に総理総裁となれば、ご祝儀的に政権発足当初の内閣支持率が上昇となるチャンスを狙い、「政権与党は10月に解散・衆院総選挙へ打って出る」という観測が高まってきた。最近の衆院解散から党開票日までは日本で株高が持続するジンクスがあり、10月にかけては日本の株高とリスク選好の円安、もしくは円高歯止めが支援される可能性を秘めている。

菅氏と為替相場の関係でいえば、2016年12月に日本経済新聞が菅長官にインタビューを行った際、当時のトランプ相場などによる円安に関連して、「黙って（円安に）なったと言われるが、私たちが為替の危機管理をちゃんとやっているからだ。今まで日本は（為替に）翻弄されてきた」、「私たちの為替への意識は強く、中途半端な決断ではない」と答えている。

菅氏による円高阻止への覚悟には、デフレ脱却やこれ以上の産業空洞化の阻止、海外移転した工場などの国内回帰促進といった政治信念がある。同時に今年8月26日のロイター通信とのインタビューで菅氏は、アベノミクスに関して「成長戦略は失敗という声が多いが、インバウンド（訪日外国人客）はひとつの成功事例」と強調していた。菅氏はビザ緩和などでインバウンド拡大を推進してきた張本人でもあり、実際に菅政権が誕生となれば「コロナ打撃後のインバウンド再生」に向けて、その再生を支援する円高阻止の強化が注目されそうだ。

一方で自民党総裁選については、現在の主流派が「石破茂元自民党幹事長の勝利を防ぐ」ことを目的として、石破氏が有利となる地方党員投票を省略しようとしている。こうした露骨な石破氏潰し策に対し、世論やマスコミなどが反発を強めると石破人気は拡大。最終的に地方党員投票などが実施され、石破氏

WARNING! 記事並びに情報はすべて株式会社ジャパン
エコノミックパルスに帰属しています。無断転載及び転送
は法的に罰せられますのでご注意ください。



〒107-0052 東京都港区赤坂1-14-5 エグゼクティブタワー
TEL (03)3568-2973 FAX (03)3568-2977
E-Mail info@j-pulse.co.jp URL http://www.j-pulse.co.jp
発行責任者：上坂 郁 編集長：原田 祥二

が勝利となる可能性も排除できない。こうした世論ムードとなった場合は、「アベノミクス路線の完全転換」が日本の株安とリスク回避の円高を促す余地も残されている。

なお、為替相場の中長期トレンド判断で参考になるのが月足テクニカルだ。ドル/円の月足テクニカルでは当座のドル下値メドとして、31日アジア市場時点レートで、2018年以降に重要な下値抵抗線となってきた220カ月移動平均線105.23円前後や210カ月線104.49円前後、200カ月線103.96円前後など、続いて2016年時や今年3月のドル急落局面で下値抵抗線となった120カ月線102.45円前後などが注視される。その他の注目ポイントは以下の通り。

＜バフェット氏の日本商社株買い、為替影響にらむ＞

週明け31日の日本株市場では、米著名投資家ウォーレン・バフェット氏率いる米投資会社パークシャー・ハサウェイが、日本の5大商社の発行済み株式をそれぞれ5%超取得したと発表したことが株高材料となった。過去1年に市場取引で取得し、価格次第で9.9%を上限に買い増す可能性があるという。5社の8月28日の終値を基にすると、「投資額は計6500億円を超える」（時事通信）。

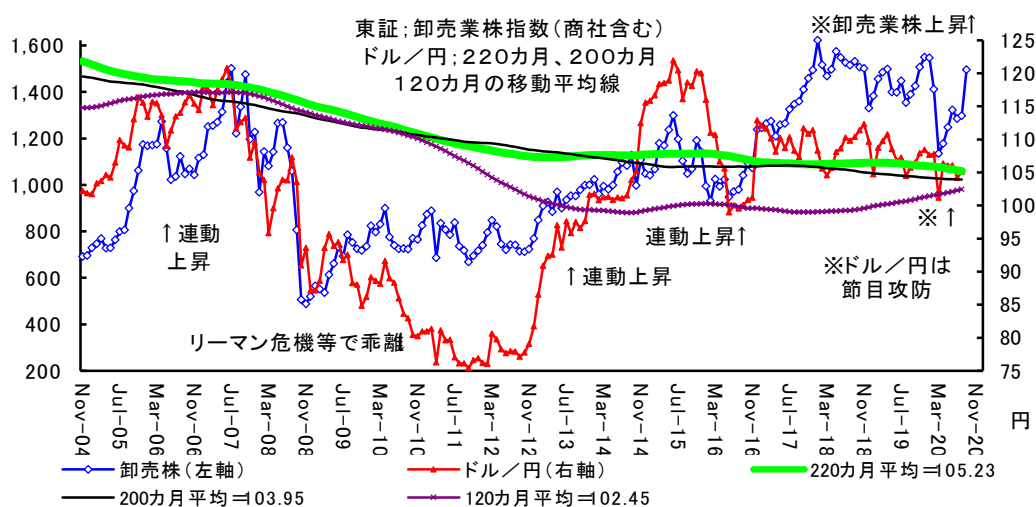
こうした動きと為替相場への影響としては、1) 日本の商社関連を中心とした企業収益の先行き改善期待が、日本の株高とリスク選好の円安要因となる（商社が含まれる東証・卸売業指数とドル/円は、過去に相関実績）、2) 長期保有で日本株に投資した場合、先行きの円安リスク（米国勢にとっては為替差損）に備えた為替ヘッジ対応が円売り要因となる、3) 長期保有による配当目的の投資のため、半年の決算ごとに「配当利益の米国送金」がドル転・円売り要因になる——という可能性がある。

その一方では、1) 今後の日本株買い増し余地が、日本の株買いと円買いの円高要因となる、2) 商社株は資源関連株であり、先行きの「ドル安・資源高」長期化と「ドル安・円高（米国勢は為替差益）」を見据えた長期投資である可能性、3) 米国株の高値警戒感や米国株の長期運用「有望株」減少など受けた、消去法的な日本の商社株買いの可能性（先行きの米株安とドル安のリスク）——といった可能性にも注意を要する。

＜雇用統計などの米国経済指標＞

今週の米国市場では重要経済指標の発表が相次ぐ。具体的には1日に8月のISM製造業景況指数、4日に8月の雇用統計が予定されている。8月の米国では、感染2波や経済制限の再拡大、追加経済対策の難航、米大統領選の不透明感の高まりといった悪材料があった。前週末28日には最新8月のシカゴPMIが予想や前月比で悪化しており、米国指標は急激な反動回復の一服が警戒されやすい。

その反面、前週末の28日には8月のミシガン大学消費者信頼感が小幅改善と



なった。米国では段階的な経済活動の再開や学校再開の動き、金利低下、ガソリン価格の下落などが下支え要因となっている。為替相場では7月以降、米国の回復鈍化や指標再減速などがドル安材料となるケースが目立っており、少しでも指標改善となれば調整的なドル買い戻しが支援されやすい。

<米国債金利の下げ渋りと3連休前調整>

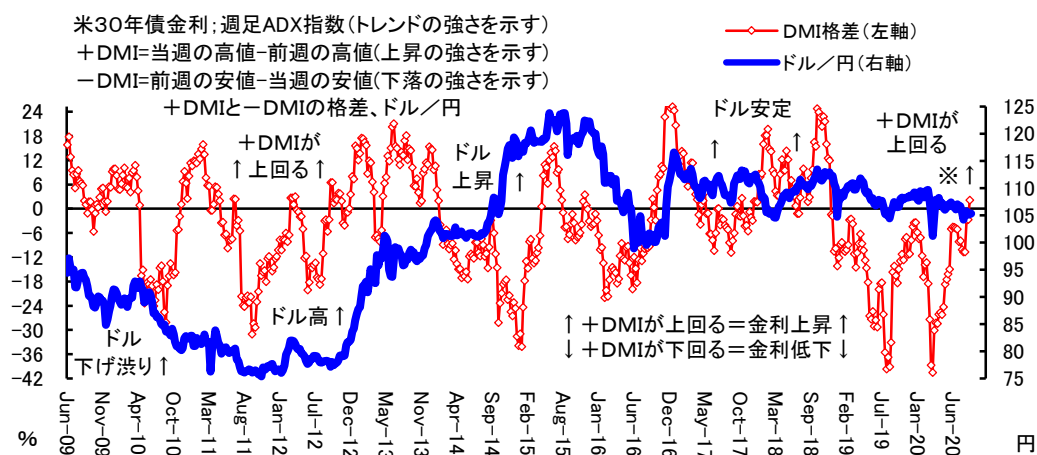
米FRBは前週27日、インフレ圧力が一時的に高まって、雇用が回復するまで金融を引き締めない新たな政策を決めた。物価安定の目標を「インフレ率2%」から「長期的に平均2%」に改定。米国債市場では、「ゼロ金利政策が解除されるのは2023年以降」という観測も出ており、長期スパンでのドル安やドルの戻り売り要因となっている。

ただし、米国債市場ではこうした材料の織り込みも進み、米国債金利は一旦の下げ渋りとなってきた（債券価格は上げ渋り）。背景としては、1) 米国での段階的な経済活動再開などによる先行きの景気回復期待と、FRB追加緩和観測の後退、2) 米国株の過去最高値推移によるリスク選好や消費支援、3) 米国での国債や社債の発行増加（債券市場全体の需給悪化）、4) 原油など資源相場の下げ渋り——といった要因がある。

その中で米30年債金利の週足テクニカルでは、金利上昇方向のシグナルが点滅しつつある。トレンドの方向性やトレンドの強弱度合いを示すADX指数（Average Directional Movement Index、平均方向性指数）で、金利低下方向の強さを示す-DMI（前週の安値-当週の安値などで算出、Directional Movement Index、金利以下トレンド時に上昇）が低下となる一方、金利上昇方向の強さを示す+DMI（当週の高値-前週の安値などで算出、金利上昇トレンド時に上昇）が上昇となっている。

前週8月28日週からは+DMIが-DMIを上回るという、ゴールデン・クロスが形成されてきた（金利は上昇方向）

過去には米債金利の上昇とドル/円でのドル安歯止め、あるいはドル高が連動観測されてきた。ちょうど米国市場は今週末、5-7日にかけて3連休入りとなる。3連休を前にした米国での金利上昇と株安、金相場下落、全般的なドル反発といった短期的なポジション調整や手仕舞い相場は注視される。



お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートの内容は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。